



TITLE:

米洲行日誌(2)

AUTHOR(S):

山本, 一清

---

CITATION:

山本, 一清. 米洲行日誌(2). 天界 1937, 17(195): 341-343

ISSUE DATE:

1937-06-25

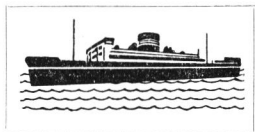
URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167489>

RIGHT:

## 米 洲 行 日 誌 (2)

山 本 一 清

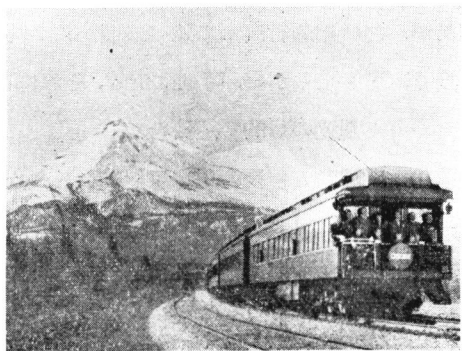


4月11日(日曜日) 曇。正午の船の位置、西經 126° 46′, 北緯 48°48′, 昨日より航走369哩。横濱を去る4073 哩, ザンク1ヅ港へ227 哩。氣壓 761.0托, 氣溫7.5°, 水溫 6.0°C, 風は SE, 6米。

終日、雨曇り。うねりあり。午後よりザンク1ヅ島が見え、14時に臨時に時計を25分進めて、ザンク1ヅ時刻とする。午後、墨洋丸を通じて、リマの帝國公使館より電報あり、今後の旅程プログラム等につき、詳細に返事をかく。明日飛行郵便を出すつもり。着港が近いので、船内ざわめく。夕食後、非クトリヤ沖でカナダの檢疫官と移民官乗船し、一同は食堂で検査を受け、夜半過ぎに就床した。

4月12日(月曜日) 曇雨。日出前、船はザンク1ヅ着。朝9時清水小三郎師が來船されたので、暫く談話室で會談後、久しぶりで市中をドライブし、4年前一時住み慣れたホテル・ザンク1ヅあたりを通り、B. C. 州立大學構内にある新渡部博士記念の燈籠を見た。之は今はザンク1ヅ市の一名物であるらしい。

午餐を7人の日本人紳士と共に頂き、14時から教育館で婦人を主とした40人ばかりの聴衆に天文幻燈使用の講演をした。16時、歸船。18時出帆した。出帆と同時に米國移民官の検査、無事オライ。



4月13日(火曜日) 曇。今朝も未明に船はシアトル港に着いてゐた。朝食7時半、8時半いよいよ下船。税關検査を終へ、10時おなじみのホテル NP に着く。星師來訪。

午後、下町を散歩。郵船や其の他の船會社を訪ねて、ペル1からニウヨ1

雪のシヤスタ山と「カスケード」號

ク行きの船便を研究する。

4月14日(水曜日) 雨と風とが強い。バンクーバーでは今冬は幾十年ぶりで寒かつた由であつて、此の北米西岸は日本と正反對の氣候である。

午前中、銀行や N. Y. K. 等に行つて用事をすまし、16時、長距離バスに乗つて、南下の旅に出る。夜半前、ポートランドで乗り換へてからは少し車の乗心地は悪かつたが、それでも一應眠つた。

4月15日(木曜日) 晴、曇、雪など、車中から見る天氣は千變萬化する。ロバートバグで眼がさめ、メドフォードで朝食、それから激しい風雪を突いて、オレゴン・カリフォルニア州境に達し、植物檢疫あり、次でシヤスタ山を左に見て下山、キロースで夕食した。途中では2、3日來の雨で、珍らしい洪水を見た。

20時半、デギス・ジャンクションで又乗り換へ、桑港は通らず、サクラメントからサンノアキン谷を南下する。此の車は非常に乗り心地良く、充分に眠つた。

4月16日(金曜日) 晴々!! 心地良き野を車は走る。6時、ベーカーズフィールドで朝食、それからテハチャペイ連山を越え、豫定の如く10時半にロスアンゲレス第6街に到着した。シアトルから1250哩、之れを42時間で走破したわけだが、之れを急行汽車に比べて僅かに2時間延びたに過ぎない。乗り心地は良く、席も柔らかで、時刻は正確、それに市街の目抜き場所を通るので、しつくりと観光の目的を遂げた。

着後、岡崎婦人經營のホテルを訪ひ、長田氏に電話などかけて貰つた後、東一街のミヤコ・ホテル第421室に泊る。早速、鶴浦氏來訪、暫く談話した。當市附近の日本人同胞の狀態について、農業と園藝との依然獨占的に盛んなこと、テキサス邊のスペイン語系米人社會へ日本人進出の餘地大にあること等の點を聞いた。尙ほ、第二世の日本人男女青年が社會上及び體格上の關係から目下深刻なる結婚難に陥つてゐることも聞いた。

夕食を木崎氏宅に招かれ、20時半からは又約束により當地の會員高村正兄氏に案内されて、ハリウスの北郊クリフイス公園にあるプラネタリウムを訪

ねた。21時頃、着いた頃には丁度夜の講演が終つた時で、直ちに臺長アルタ1博士及び副長クレミンセウ氏に會ひ、内外の諸設備を見せられた。ホール内の透明寫眞の夥しいこと、太陽觀測教育部に分光太陽鏡等立派なものが列

(プラネタリウムのグリフイスの)



んであること、日食の説明装置、大月球世界の模型等、感心した。又、プラネタリウムは大阪のに比し、案外舊式なのに驚いたが、しかし當所で改良を加へた點として、各星座畫、オリオン等は良いと思つた。——殆んど24時まで各部を參觀し、後4人で市内の茶店で休憩し、分れたが、今回の6月の日食には米國ワシントン海軍天文臺(主任ヘルエグ少將)、國民地理學協會、キルソン山天文臺等の協同觀測隊が大洋州フィニクス諸島中のエンダベリ島に出張する計畫であることを聞いた。パサデナの工學院のジョンソン氏より電話あり。

4月17日(土曜日) 晴れて暑い。朝10時頃、プロ1レ1の長田政二氏が來遊せられ、久しぶりで快談した。午後は鶴浦、井下、長田3氏と共にハリウッドへ又プラネタリウム參觀に行き、今日は講演を一席聴講した。入場者は150人ばかり、主として星座の解説のみであつたが、1時間タツプリであつた。アルタ1臺長に花山よりの彗星目錄1冊届けて置いて、辭去し、ハリウッド郊外の新住宅地をドライブし、18時一旦歸宿。それから鶴浦氏主催の晚餐會に招かれた。第二世の日本見學につき父兄たちの意見を聴く。